

武教全書口訣
山戰

廿二

武教全書	
部門	七乙一
番號	六
冊數	二八



武教全書口訣

山戰

山ニ使リテ戰ヲ為ス千ヲムノ勢也

山ノ手ヨリ取寄ル遷之舉

山ニヨリテ敵國ハ下リ寄ルニ遷多シ

其訣ヲ云フ

一 山ヲ以テ大ヲ謀ルニ謀切多ク事少

山ヲ以テ大軍ヲ戰スニ平原ニテ

利ナキ者ハ山ニ依リて戰スニ



武教全書口訣



△山戰

山ニ便リテ戰ヲ為ス一ヲ云ノ篇也

○山ノ手ヨリ取寄ル徳之事

△山ニヨリテ敵國ヘ「リ寄ルニ徳多シ

其説ヲ云

一 小ヲ以大ヲ謀ルニ謀切多キ事

△小勢ヲ以大軍ト戰フニハ平原ニテハ

利ナキ者ニ山ニ便リ取テ徳シ戰フニ

利アリ敵ヲ謀ルニ年段多キハ茶
ヨリ未ノ茶ニカケテ見ルハ
一 城ニ城地ヲ見立ルニ堅固ノ地取多キ事
取午陣城ナトノ類滅ルニ取立ルナ其
地取ヲ見立ルニ山ニ自然ト堅固多
有之故急ニ取ルニ午間ヲ費サ大堀ヲ
ホリ土居ヲ築ニモ不及或ハ虎ヲ掛ル
巡柵虎落ヲ結テ又ハ類ノ丁人刀ヲ用
又シテ自然ニ堅固ニ

一 竹木薪藁多クシテ其利アリ事
一 竹木ノ城ヲ取陣ヲ掛ル類絶テ作事ニ
不入用ニ薪ノ云ニ不及藁ハ馬ニ飼ハ是
一 等金ニ不叶山中ニ沢山ナレハ外ヨ
リ取ヨスルニ及ハス甚便多シ
一 合戦ヲ致スニ方便多キ事
一 平陸ノ合戦ト違フテ險阻ニ便ナク
一 新設敵ヲハ片山ニ疑兵ヲ用或ハ
一 回シ滞ヲ用或ハ伏兵ヲ置ノ類午段ヲ

為スニ便多シ

一 敵地戰ナレトモ夜軍不可事

敵國ナレトモ我險阻ニ便り陣ヲ取テ

敵ヨリ夜戰ヲ致シカケルトナラヌ者

ナリ

一 後ニ山ヲ拍峯々ニ野伏ヲ置登ハ守リ旗

或ハ狼煙夜ハ飛脚篝等ヲ以我國人事ヲ

聞又ハ此方ノ事ヲ相通ルニ便ル事

味方ノ後ニ山ヲ拍テハ敵岸上ヲ見謀

一 以テ夫ヨリ峯々ニ野伏ヲ置相圖紛束ヲ

○ 定テ登ハ旌狼烟夜ハカ、リテトヲ以

自國ノトヲ聞軍中ノ趣ヲ留守ハ通シ

知ラヌルニイカカト隔テモ片取人間

ニ達セラレテ便利ニ

一 引取ルニ其便リアル事

ニキ取テハ山ニヨリ險ヲ經テ引取ニ

敵ヨリ付送り追討ヲスル事成方ナル

一 敵心易ク引取ルニ便利ニ

一 敵國ノ地下人騒ノ事

敵登ル寸ハ是里ハ放火ナリニ逢故地

下人ハ家取テ抱テ山中ニ落居ル者

ナリ然レニ山ノ手ヨリ押入ル寸ハ山

中ノ地下人居ルヲ失ニ駭キ騒キテ軍

ハ出敵中へ走リ込或敵他國ニテ其國

虚シク早ク勞ルニ

○山中備押之事

一切處險難人惡處ヲ不可越行事

山手ヨリ押入刀宜トイヘ凡又岩山人

類全テ切此險阻各地敵夕トハ甲及

女坂ナト云ル如名アル惡此ハ遠慮ヲ

ナシテ越行間敷ナリ人馬共ニ勞レ苦

シテ宜シカウ又ニ

一 三者ヲ用テ先後別道ヲ計汰其リヲ探リ

疑ニナク可勘入事

初後ノ三者ヲ用テ前後左右ヲ見切本

道筋別道ヲハカリ敵ノ伏其ノ百弁ヲ

ツクリ知ラケヒ疑ニ危ヲハ一ニ立シテ
勤ヘヘシ

一 山ノ頭々ニ備ヲ立本道ヲハ明テ小荷取
雜人ヲ通シ能年配メ少シアテハミ入ル

ヘキ事

山ノ峯々ニ滝ヲ立前後左右ヲ見切テ

本道筋ヲハ明ケテ小荷太雜人ヲ通サ

也能年配ヲメ不意虚ノナキ極ニ全ク

不意内ノ地ナレバ先ヲ見切テ少シ死

敵地ヘヲシ入リシ

一 十里ノ道ヲ十日ニモ押也山ノ頭々ニ取

午ヲトリ陣城ヲ搦ハ張番ヲ致メ可通入

事

十里ノ道ハ一日ニモ押行ルナレトモ

道ヲ急ニスルナハ諸勢勞レテ不意虚

出来ル者ニ故ニ十里ノ行程ヲハ十日

ニモ押心得ニ悠ニノ万事ヲ整ハ全ク

押知ラケルニ信ニ三里ヲ行テハ其処

目當ノ山ノ頭ニ取テ陣城ヲカマヘ
ハリ番ヲ出メ敵ノ上ヲハカリ先ヲ考
臨ヲ取切レサレ如相角約束ヲナシテ
次第ニ押入シ

一 對ノ峯ヲ取事

我ノ陣城ヲ取ル山ニ對楮シタル峯
ル寸ハ敵ニ取レ又先ニテノ方ニ早ク
其峯ヲ可取敵ニ取ルニ寸ハ我陣城ヲ
見透サレテ對陣ナリ難シ

一 山中小荷駄押ノ事



諸勢ハ率々ヲ押テ前後ヲ見切小荷太
ハ奉行ヲ付テ本道ヲ付テ押ハキニ

○初テ見ル山中ニ道ヲアツル事

アツルトハ新夕ニ道ヲ明ケタルトシ

一山ノ前後ヲ可知前ハ平ニ後ハ險阻ナル

事

山ニ必前後アル昔ニ前ハ平ニユウク

トメケワシカラス其脊ハ險阻ニテ急

ニサカシキ者ニ是ヲ後口ト云新夕ニ

道ヲ造ルニハコノ前後ヲ知テ山ノ

後口ノ方ヨリ付ヘシ故ハ急ナル方ハ

登ルトハ安ソ下ルトハ難シ山ノ後ヨ

リ道ヲ付テ押サハ向ハ山ノ前トレハ

必登リ下リモ致シ能自由ヨロシキニ

コノ考ナキサハノホルトハ成テモ下

ルトハツカヘアリ

一水ノ流ヲ考人氣象木ノ首椽ヲハカル事

水流ノ末ニハ人里有モノ又人家近

千巡ニハ人氣見入煙十ト立草木十ト
人ノ切折タルア下アル者ニ山中ニテ
コノ谷水ノ流ヲ以邑里ノ有無ヲ考人
氣喪草ノ有マウニテ人家ノ遠近ヲハ
カリ知入レ

○我山上ニ有テ敵ヲ山下ニ諸夕ハ取謀切
之事

一地形ノ堅固ヲ失ハカレ事

山アレハ早ク味方ニ取是ニ便リテ堅

固ヲ失ハカレ如ス入レ
兵添日有山便不拍高低據以爲險靜以待
敵登高望遠可見虛實而施謀也

山アルハ高キ低キニハ拍ハラス具

山ニ便リテ陰トナス入レシ是地形ノ堅

固ヲ失ハカレハ勿論高低ニカ、ハラ

ス下ニテ高キ山アルニ夫ニ因ラズシ

テ低キ山ニヨルハ之ニハ非カテ静

ニ以待敵ト險ニヨリテ我備ヲ全ク立

少シノ慮モナク安ラカニシテ敵ノ来
ルヲ待ヘシ高田ノ地ヘ登テハ遠方近
モ見ユル者ナレハ能ク窺ヒ敵ノ虚实ヲ
見切テ夫ニ應メ策ヲ可施シ

一 見也 備見也 旗ノ事

ミセ 備ハ 雜人野伏 十下ニ 竹籬 紙小旗
十下 持也 險阻ニ 便リ 林木ノ 陰ニ 備シ
ノ 疑兵ヲ 十下ヲ 云之也 旗ハ 旗計リヲ
山林樹木ノ 内ニ 立テ 備ヲ 設ケタル 如

スルヲ云 如是 武界ヲ ナシテ 敵ヲ 疑ハ
セ 惑ハセ シムル 敵ノ 軍略ヲ 知
テモ 人数ヲ 分テ 當ヲ ナクモ ノ心

一 遠候ノ候ヲ 用テ 能外ヲ 窺フ 事

コノ 物見ヲ 出シテ 外敵ノ 上ヲ 窺ハセ
回シ 浴ハ 十下ノ 類ヲ 見セ シムル 下
要也

一 敵間遠近ノ 嚴備アル 事

平陸ノ 如一二ノ 間五下ニ 立ル 事ハ 險

阻ヲ隔テ儻ル故故應叶ニ強シ故ニ滯
間ヲハ近ク立ルカ宜然レトモ歸リ近
ケレハ又混雜シテ不宜凡ニ下或ハニ
下半ニモシテ宜カラシ諸山上ニ滯除
ニ便リタリ此夫ヲ頼ニセホ必シマリ
儻ノ儻ヲ立テ堅固ヲナスヘシ
一 足輕ノ兵ヲ出シ敵ヲアヒシラケ引カク
ルニ利アル事

山中ナレハ歩卒ヲ用テ勸自由ヲキ

故ニ足輕ノ兵ヲ用テ敵ヲ會釋セヨ
キ夕トハハ敵ノ儻ウカト行懸リ矢
軍十トニ敗走トトニテ敵其利ニ乘シ
追来ル如シテ引カケコノ方ヘ引付テ
戦ノニリアリ
兵法曰吾先居高陽則賊自陷於低下攻矢
石打發我遠彼迫人馬馳逐則我逸彼勞
是引カクルニ利アル下ヲ去我山上高
陽ニ滯テ居敵ヲ引カクル下級自怒ト

山下流之ニ居ルニ故ニ矢ヲ放テ石ヲ
折ニ敵ハ御向テ折故我ニ當ルト遠ク
我ハ又山上ヨリ見下シテ折故彼ニ當
ルト近キ道リ人馬ノ駭列ヲナスニ
ハ我ハ山上ニ待テ敵来ルト止ヨリ下
シカケテ勢ニノリテ折故勞ルト
ナク敵ハ山下近ヨセ来リ險阻ヲ登ル
故ニ勞ト苦トシ

一 敵ヲツカハラシナヤママズ事

山下ノ敵ヲ色々ト手段ヲナシテ勞シ
ナヤマズニ利アリトハ夜中ニ関
ヲ揚取ハ不意ニ大筒ヲ折ラケルト
色々トスルハ昼夜共ニ敵休ムルト
モナラズ守リ詰メニスル故ニ勞ト苦
シミ大ニ屈メ却テ虚トナル皆ニ其
ヲ止ヨリ勢ニ乗メ折シ
一 大茨リヲ可用事
山林ニ便リ大茨リヲ用テ敵ヲ討ヘキ

ナリ

一 兩翼ノ備ヲ設ル事ハ一向ニ裏ノ事

・ 備立マウハ練陣ニ云リ敵ヲ山下ニ受

テハコノ兩翼ヲ用テ可討モシクハ一

向ニ裏ヲ可用シ

一 鳥雲ノ陣ヲ張事

・ 練陣ニ云ル如シ山澤鳥雲ト云テ山ニ

便リテ立ル備ハ山戰ハ甲之擊下ニ

一 進ニテ戰フニ利アラズ不待テ可戰事

・ ス、ンテ戰フオハ士卒勞レ且地形ヲ

失フ故ニ宜ルヲス免申待テ戰フニ利

多クハ敵ヲ、ヒキ引付テ可戰遠ヲ

以勞ヲ討ノ道理ニ

一 廻シ備ノ事ハ證提旗ノ事

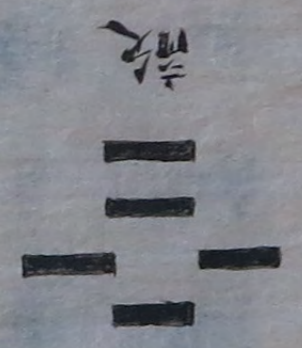
・ 山ニ便リ密ルニ人欺テ廻サレ、地形

ナラハ此備ヲ用敵ノ不意ヲ可討然レ

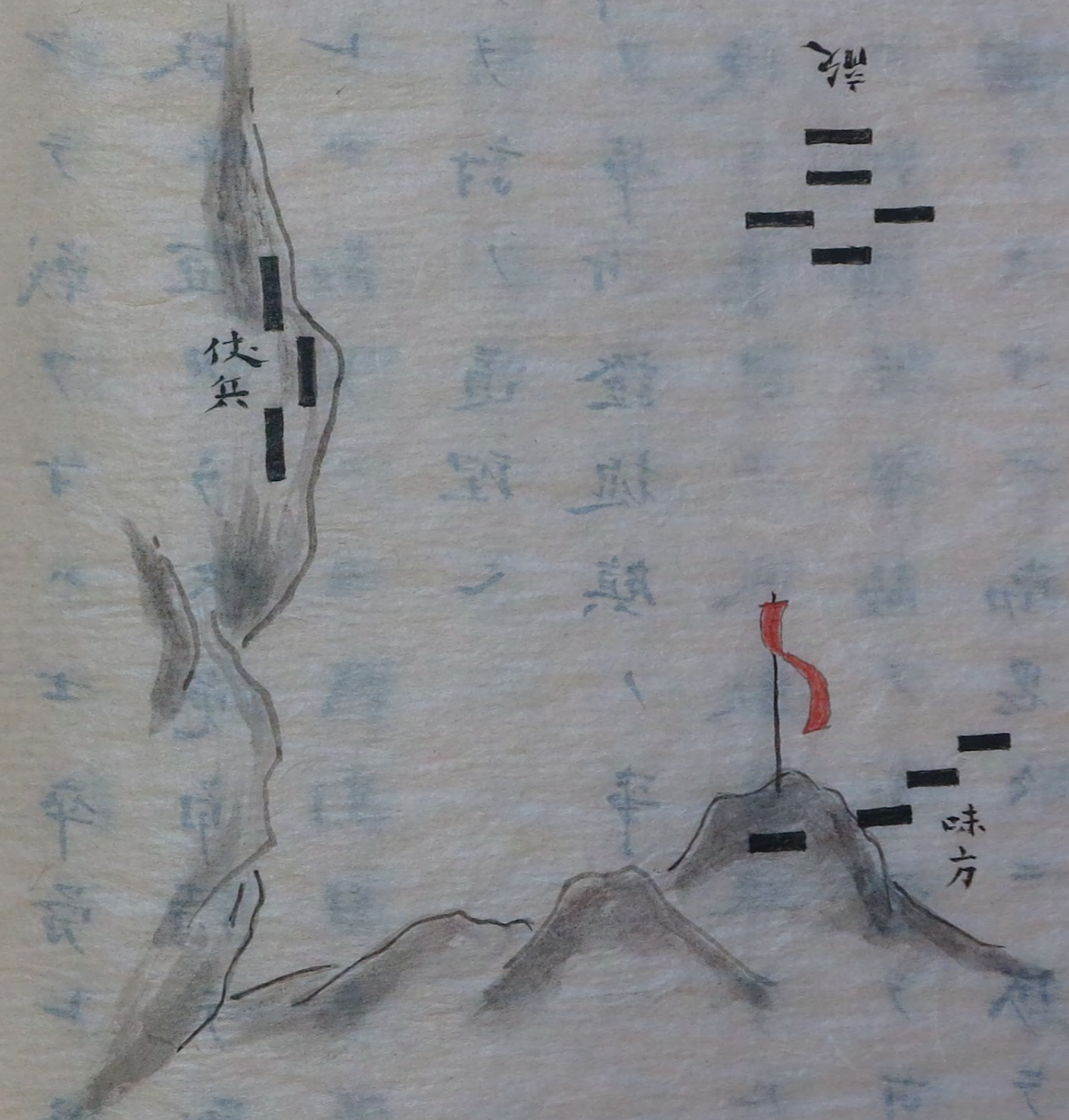
氏相圖ナキオハ勦息々ニ成テ具證立

故ニ本陣ニ證ヲ立テ立翔束ヲ定相

アヲ成入シ本陣ト引包ニ討意ニ



味方



我山下ニ在テ敵ヲ山上ニ受テ此取謀切
之事

一 先足輕ヲ出シ敵ヲ山下ニ引出ス入キ事

一 山上ノ敵ト戦ヲナスハ城ヲ攻ルト同

シ事ニテ戦ハ難キ者ハ先輕兵ヲ以テ

段ヲナシ敵ヲアヒシテ平地入ヲヒ

キ出スヘシ其後對様ノ陣ニテ戦ヲ爲

ニ利アリ

一 遠溪亦溪ヲ用テ廻シ渾一向ニ裏ヲ可知

事

一 敵山ニヨリテ廻シ降一向ニ裏ナリテ
 甲ル者ナレハ物見ヲ申断ナク出ノ之
 ヲ探リ知不意ヲ討レサル如我降ヲ全
 ヲ敵ヲ為入シ
 一 敵タトハ輕ク引トモ續テ是ヲ追山上ハ
 降ヲ上ル事ナカレ慎テ位ヲ可見事
 一 敵ヲナスニ敵山上ハ輕ク引トモ走ニ
 棄メ見込モナク続キテ山上追追ナ

還テ手段ニ陷テ敗軍ニ及ノ者ナレハ
 敵引取トモ容易ニ追テ山上ニ降ヲ上
 ケス我降ヲ全メツシニ念ヲ入實ニ
 敵敗メ引カヌハ手段ヲ設テ我ヲ引カ
 クルカノ位ヲ能見ハカルハ之實ニ引
 取ナハ追討テ宜
 一 降ノ立様場處間積リ心得百ハキ事
 一 降ハ行ニ可立場處ハ敵ヲ我左ニ請
 入ルヲ善トス然レトモ地取ニ依テ其通

二十ウカハハ取宜ニ叶ハ得カ論ハ
間積リハ彼我ノ間ハ山上ノ敵ハ山下
ハ引出ノ對極ノ陣ニメ敵ヲニ利アル
ナレハ丸山上ノ敵山下へ下テ平地へ
降ヲ立ルモ下地形ヲ明テ我降ヲ可立
是心得シ

一 殿ノ降有テ重ク可守事
敵ハ險ニヨリ吾ハ平地ニ降レ敵殿リ
ノ降ヲ堅固ニ設テ怪ニ敷事ヲ計ラズ

メ全フ降不意虚ノナキ如守リヲ能可
鳥シ

一 寄テヨセウル、事

前ニモ之ル如山上ノ敵ハ引出メ敵ヲ
ニ利アリ我敵陣へ押寄テ示スニ不意
虚ヲ以シ實ニ不及如シテ還テ敵是ニ
棄メ山上ヨリ我陣へ自然ト寄来ル如
スルトシ如是シテ引カケテ可撃ル由
一 又シク對陣スルニ利アル事

一 我ハ平陸ニ陣スレハ万事自申宜敵ハ
 山上ナレハ兵糧用水ヲ始諸事不自由
 ナレハ又シク對スル寸ハ究テ勞レ大
 ニ屈シ自然ト敗ル者之故ニ利アリ
 一 廻シ滝ヲ止ル滝可有事
 地理ニヨリテ敵ヨリ廻シ滝ヲ用ル物
 ナレハ是ヲハマリ察ノ遊軍ヲ用テコ
 レヲ留ル滝ヲ設ヘシ然ラレハ不意
 ヲ討レ敗スルナリ

圖六



○一揆逆心ノ輩成ニ山固屋ハ取籠ルニ謀
切之事

百姓十十一揆ヲ登スカ或ハ逆道ノ輩
力成ニ山上リヲメ山中ニ固屋ヲ掛テ
取籠リタル取ノ事ニ

一 至テ速クナルニ利有事

至テ大ニマカナルハ一揆成ニ山中ニ
取籠リタル處ヲ少モ遅々セズ即取隨
分早ク討之然ルナハ一揆ノ人数ノ分

配モ定マラズ兵具ハモ備ハラズ申談
ナク抑テ調ハサル也故大ニ理アルニ
迄々ニスルナハ命全ク成テ討難クニ
故速ニ討力宜
一 速クニ致事不協取ハ重ク緩クニアテカ
ウヘキ事

前奈ノ如速クニスルニ趣アリテ叶ハ
サレナハ重ク我ヲ能治メ備ヲ全メ敵
ヲハエルヤカニアテテ攻入シ然

ハ又渠勞レ屈メ自然ト退散スル音

一 引取ヘキ道筋其退口ヲ考ル事

是ヲ豫メ考ヘ積リテ其方ヘ入敷ヲ廻

シ置テ可討取シ

一 其助ケヲ絶糧道ヲ可取切事

一 撥ヲ登スナハ後梢トナル昔ヲ頼シ

置後詰ノ助ケヲコシテ置者ニ是ヲ

計リ知テ其助ケ可来方ヘ冷ヲ設ケ敵

ヲ押ヘテ其助ケヲ絶サテ粮道ヲ考ヘ

ツレヲ取切糧ノ通路ヲ塞クハ然ル

ハハ勢ニクシケ曉氣生シ第一糧盡テ

即落太スルハ

一 引出シアロシ口ツヘキ事

我險ニ向テ戦ハハ大ニ疲ル者ナレハ

一 撥ヲ山ヨリ引出シテ會釋ニテ山下

ヘヲロシテ戦フニ利アル者ハ

一 大アツカニ引出シ帰服ノ事

大アツカヒヲ入テ夕トヘハイカマウ
ノ下ニテ山上リヲ欲シタルカ一先山
ヲ出ヘシ左アウハイカ様トモ存分ニ
任スヘキナト云怒メ帰服スル如キ既
ヲナシテ山固屋ヨリ可引出其上ニテ
イカマウトモ其罪ヲ正スヘシ

一 地利ヲ知ラバ

夜駈ヲ用ル事

地形ノ案内ヲ知夕ラバ夜懸ヲ欲シ山

小屋ヲ引崩シ敵ヲ討ハ口ウヘシ

